

道東太平洋沖の流速場（2019年02月 海況速報No.192 付記）

2019/03/04

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。

親潮：親潮の本流（O1：流速50～80cm/s程度（100m深））は釧路沖合を蛇行・一部分岐しながら南西に流れています（図1）。本流はそのまま襟裳の南方を南西向きに流れ、おそらく三陸沿岸まで到達していると考えられます。41°N線付近の沖合には本流とは逆の北東向きの強い流れ（RO1）が形成されています。道東太平洋の広い範囲に親潮水（100m深5℃以下）が分布しています（図2）。

津軽暖流：津軽海峡から流出した流れ（W1）は、そのまま青森沿岸に沿って南下しており、津軽暖流は沿岸モードです（図1）。一方で、日高湾の沖合には広く親潮水が分布しています（図2）。この影響により、沖合を中心に例年よりも100m深水温が低めとなっています。

今後の見通し：現在、観測海域よりも南側には暖水塊が分布していますが、親潮の勢力が現時点では強めなので、今冬から春にかけては暖水が北上してくる可能性は低いと考えられます。

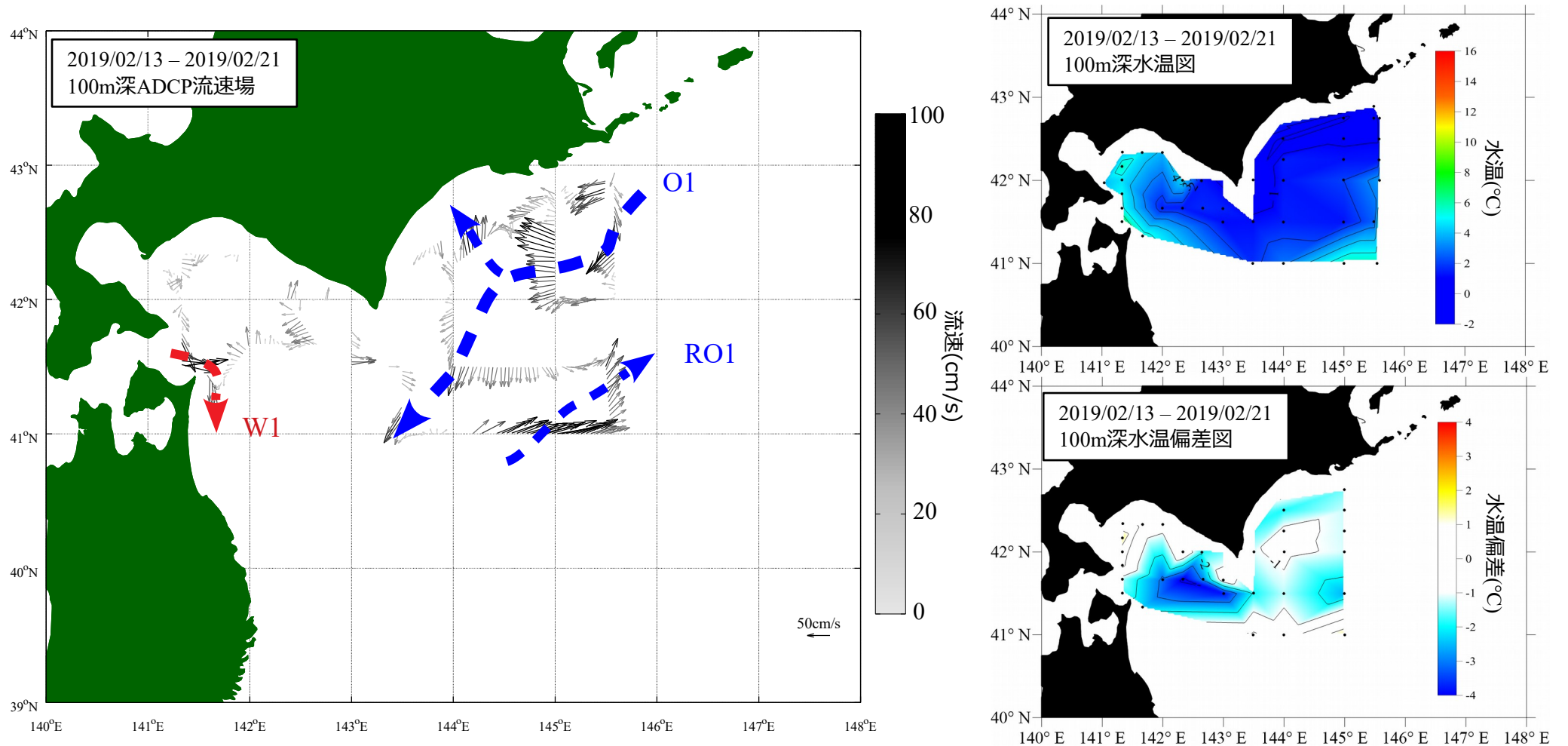


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さで色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）と暖流（赤）の流れの模式図

図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2008年平均からの差）